

前方支持回転における観察的評価基準の作成及び有効性の検討

広野 健 (岡山大学大学院)

1. 目的

本研究では、文献研究やバイオメカニクス的手法から前方支持回転を成功するためのポイントや技法(身体の使い方)の調査・検討を行った(事前調査及び研究1)うえで、観察的評価基準の作成及び有効性を検討すること(研究2)を目的とした。なお、紙面の都合によりここでは研究2の報告のみ行う。

2. 研究方法

観察対象者が実施する前方支持回転を、作成した観察的評価基準により観察者に評価させた。次の方法により、その有効性を検討した。

1) 観察対象者(前方支持回転を行った人): 学生15名(男性11名, 女性4名)

観察者(評価者として観察した人): 保健体育専攻の学生7名(男性5名, 女性2名)

2) 観察的評価基準の作成: 2種類の観察的評価基準から構成(針谷・近藤, 2017)

- ・全体印象評価: 動き全体の評価, 最も未熟な動作をパターン1, 最も成熟した動作をパターン5

- ・部分評価: 身体部位や動きの部分の評価, 12項目で構成

3) 観察的評価基準の評価: 妥当性, 客観性及び信頼性から観察的評価基準の有効性を検討

- ・妥当性: 体育の専門知識を持つ教員と協議のうえ観察的評価基準を作成

- ・客観性: 観察者全体の回答の一致

- ・信頼性: 2名の観察者の2度による回答の一致

4) 調査手順: 動画を視聴した評価

- ・全体印象評価: 通常速度再生動画

- ・部分評価: スロー再生動画

5) 統計: Spearmanの順位相関係数, 信頼性係数(α 係数)

3. 結果及び考察

1) 事前調査及び研究1による前方支持回転を成功するためのポイント

回転前半では、回転軸から頭頂までの距離を長く

することや膝関節の屈曲で回転速度を高めること、回転後半では、回転軸から頭頂までの距離を短くすることや腰・膝関節の屈曲で回転速度の減速を防ぐことが重要であると考えられた。

2) 全体印象評価

撮影した通常速度再生の動画視聴により、作成した基準による全体印象を評価させた。観察者7名全ての組合せで、有意に高値な相関係数($p < 0.001$)と高い信頼性係数を得た。さらに、2名の観察者による2度の回答から信頼性の検討を行い、全ての組合せで、有意に高値な相関係数($p < 0.001$)と高い信頼性係数を得た。よって、観察的評価基準における全体印象評価は有効性が高いことが示された。

3) 部分評価

撮影したスロー再生動画の視聴により、評価基準として設けた12項目について部分評価させた。客観性及び信頼性の検討を行った結果、2項目にのみ有意に高い相関係数($p < 0.001$)と高い信頼性係数を得た。したがって、部分評価の項目とした多くの項目は客観性及び信頼性が低いことが示された。これは、スロー再生動画でも、観察者が運動を正確に評価することが難しいことや、部分評価の項目そのものの妥当性が低かったことが考えられた。

4. 結論

本研究で作成した前方支持回転の観察的評価基準は、全体印象評価では有効性を示すことができた。しかし、部分評価の多くの項目では有効性を示すことができなかった。保健体育を専門とする観察者でも評価が困難であったことから、学校現場で活用するためには、部分評価の改善に加え、器械運動の専門知識の少ない人を対象に、観察的評価基準の有効性の検討を行う必要性が示唆された。

文献

針谷美智子・近藤智晴(2017)鉄棒運動における観察的評価基準作成の研究—小学校低・中学年時の基礎運動に焦点を当てて—。体育科教育学研究23(2):19-34。